

## 校名の由来

将来、市内の中学校を南・北二校に統合・整備するという構想は、大町市発足（昭和 29 年）以来の課題となっていました。

○旧市町村名称四校制時代（昭和 29～33）

やがて、北部に第一中学校が新設されることとなると共に

○番号名称三校制時代（昭和 34～39）

をむかえます。旧常盤中学校が第三中と呼ばれ、やがて南部に、新第二中学校（仮称）が新設されることとなるとともに、

○固有名称二校制時代（昭和 40～現在）

大町市誕生以来の課題であった中学校二校制の発足にあたり、それにふさわしい新校名が審議された市議会の席上では、第一中学校の変更案として「鹿島根」「王子」「不二塚」の名が、新第二中には「旭丘」「仁科」などの名称があげられたということです。

第一中学校のPTA側からは、校名は定着しているからとして改名に強い反対があり、結局「第一」名を継承することになりましたが、新第二中学には、従来の第二中、第三中が合併して発足するというような事情もあって、それにふさわしい新校名が模索されました。

「明治の学制発布により、大町の地に最初に創設された学校が「仁科学校」と名付けられたことから「仁科」の名を冠したいと考えました。そのまま仁科中学校とするのもおさまらないので、「台」の字を加えて「仁科台」と提案しました。

<大町市 八日町 平林達郎氏（当時市議会記録）談>

略称が、一中に対して仁中と呼べることなども配慮されたということです。こうして、仁科台の名が選ばれ、命名されました。

仁科台の名は、平安時代から戦国末期まで、およそ700年にわたり、今の大町・北安曇野地域を始め、数々の文化を遺した豪族の姓であり、この地域名でもありました。古文書に「仁科御厨」（平安）「信濃国仁科庄」（鎌倉）「仁科領」（戦国）、また仁科氏滅亡後も

「仁科旧府」（江戸）と使われてきており、現在でも、木崎・中綱・青木湖を総称して「仁科三湖」と呼び、本殿などが国宝に指定されている「仁科神明宮」などに仁科名は生きております。

いわば、仁科の名には、長い伝統と豊かな文化の地であることの地域の人々の誇りが込められていると言えるでしょう